科目ナンバリング	U-LAS04 10020 OJ47　U-LAS04 10020 OJ46　U-LAS04 10020 OJ45 U-LAS04 10020 OJ17

授業科目名 <英訳>	統合型複合科目（人社群p2）：人と人以外の存在者の関係を考えてみよう！　HL01 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p2) :Let's think about the relationship between humans and non-human beings! HL01	担当者所属 職名・氏名	人と社会の未来研究院　特定教授　出口　康夫 文学研究科　教授　黒島　妃香 文学研究科　教授　伊勢田　哲治 文学研究科　教授　児玉　聡 文学研究科　教授　下垣　仁志 文学研究科　准教授　天野　恭子 文学研究科　准教授　南谷　奉良 成長戦略本部　特定准教授　五十嵐　涼介

群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	4単位	週コマ数	2コマ	授業形態	講義＋演習（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火3・水1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

世界には（（ヒト以外の）動物・植物などの）様々な生命、（土壌・水系・エコシステムなどの）非生命的自然物、（AI・ロボット・人工生命などの）人工物、死者、神、情報等々の「人/ヒト以外の存在者」が溢れています。僕ら「人/ヒト」は、これらの「人間以外の存在者」とどのような関係にあり、またどのような関係を取り結ぶべきでしょうか？
AIやロボットの急速な進歩と普及を受け、現在、「人/ヒト」と「人間以外の存在者」の関係に改めてスポットライトが当たっています。

講義では、人間とAI/ロボットのあるべき関係を論ずるとともに、それ以外の幅広い「人間以外の存在者」をも視野に入れ、それらと人間との関係について、さまざまな角度から考察します。

少人数演習では、リレー講義の参考文献を精読し、少人数での討論を通じて理解を深めることを目的とします。人間中心的な世界観を相対化し、動物、人工物、神話的存在、過去の遺物など多様な「人以外の存在者」について、哲学・倫理学・心理学・考古学・文学といった複数の学問分野の視点から考察します。受講生は文献の読解力と批判的思考力を養いながら、異なる学問領域の方法論や問題意識に触れ、学際的な視野を獲得します。

○統合型複合科目分類【文・文】
主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題についても文系分野の要素が強いと考えられるもの

[到達目標]

1. 学術文献を正確に読解し、その論旨を的確に要約・説明できる
2. 文献の内容について自らの見解を形成し、根拠を示しながら他者と議論できる
3. 「人以外の存在者」をめぐる諸問題について、複数の学問分野の観点から多角的に検討できる
4. 討論を通じて他者の意見を理解し、自らの考えを深め、発展させることができる

[授業計画と内容]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）
◆講義（水曜1限、文学部校舎第3講義室）
第1回-第2回：出口康夫
AIやロボットの急速な進化と社会実装に伴い、今、人とAI/ロボットの間のあるべき関係が改めて

統合型複合科目（人社群p2）：人と人以外の存在者の関係を考えてみよう！ HL01(2)へ続く↓↓↓

問われています。本講義では、講師が提唱しているWEターンの哲学を踏まえ、人間とAI/ロボットの関係について、主にヨーロッパで提唱されている「主人－奴隷モデル」に対するオルタナティブとして「フェローシップ（共冒険者）モデル」を提案します。

【参考文献】

出口康夫『AI親友論』徳間書店
マルクス・ガブリエル、出口康夫『これからの社会のために哲学ができること』光文社
出口康夫『私ではなく「われわれ」から考える－WEターンの哲学』ナカニシヤ出版

第3回-第4回：天野恭子

「人間以外の存在者」として最も古くから認められてきたのは、「神」でありましょう。今から約三千五百年前の古代インドでは、様々な自然現象や社会慣習を神として崇め、それらを讃える讃歌を紡ぎました。それがインドで生み出され、語り継がれた哲学や神話の原点となりました。当時の人々にとって、神は想像上の産物ではなく、徹底的なリアルです。彼らはどのように神々と触れ合い、神々と向き合ったのか。体系的な韻文で編まれた世界最古の讃歌『リグヴェーダ』を読んで「体験」したいと思います。

【参考文献】

上村勝彦・宮元啓一編「インドの夢・インドの愛」春秋社, 1994
川村悠人「ことばと呪力 ― ヴェーダ神話を解く」晶文社, 2022.

第5回-第6回：下垣仁志

鏡と倭人の考古学

銅鏡は邪馬台国の卑弥呼や大和政権、三種の神器の八咫鏡などと絡んで一般社会の人気度が高い。従来の研究では、古代人が純然たる客体である銅鏡を政治的・宗教的に操作する側面が重視されてきた。それに対し講義者は、かたや「権力資源モデル」、かたや「アクターネットワーク理論」を用いて、器物(銅鏡)が人間関係を動かし、社会ネットワークの生成を駆動する側面に注目してきた。本講義では、古代国家形成期(弥生～古墳時代)の銅鏡を主役に据えて、銅鏡という器物が人間集団の結節と権力関係の醸成を促し、律令国家形成に先だつ原初的な国家機構の成立に重要な役割を果たしたことを、考古資料に即して明らかにすることで、器物と人間/社会とのダイナミックな関係を描きたい。

【参考文献】

下垣仁志2022『鏡の古墳時代』吉川弘文館
ジュリアン・トーマス著(下垣仁志・佐藤啓介訳)2012『解釈考古学』同成社
イアン・ホッダー（三木健裕訳）2023『絡まり合うモノと人間ー関係性の考古学にむけてー』同成社
Chapman, R. 2023　Archaeological Theory: the basics. London: Routledge

第7回-第8回：黒島妃香

本講義では、比較認知科学の立場から「ヒトと伴侶動物の関係」を探ります。特に、イヌをはじめとする伴侶動物がヒトの行動や感情をどのように理解し、またヒトが動物の行動をどのように解釈し、いかなる社会的パートナーとして認知しているのかを、実証研究に基づいて考察します。動物側の適応とヒト側の解釈に生じるズレが、いかにして相互理解の感覚を生み出すのかを検討します。

【参考文献】

MiklÓsi, Á. (2015). Dog Behaviour, Evolution, and Cognition. Oxford University Press.
Range, F. & Virányi, Z. (2015). Domestic Dog Cognition and Behavior: The Scientific Study of Canis familiaris. Springer
黒島妃香（編）（2022）．特集：伴侶動物のこころを探る．心理学評論, 65(3).

統合型複合科目（人社群p2）：人と人以外の存在者の関係を考えてみよう！ HL01(3)へ続く↓↓↓

第9回-第10回：児玉聡
この講義では、「人」と「人以外の生命」との境界をめぐる倫理的問題を扱う。まず、胎児の道徳的地位と人工妊娠中絶の倫理について考察し、「パーソン論」を手がかりに、「人間であること」と「人格であること」を区別する試みを検討する。次に、動物の利用（動物実験や工場畜産など）に関する倫理的論点を取り上げ、主にピーター・シンガーの議論を通じて、「苦痛を感じる存在」や「権利主体」としての動物の扱いについて議論する。日常的な思考において隠れた前提となっている人間中心主義を相対化し、今後の議論の土台を作ることが本講義の目的である。
【参考文献】
江口聡『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房
児玉聡・林和雄訳『なぜヴィーガンか』晶文社
児玉聡『実践・倫理学』勁草書房

第11回-第12回：伊勢田哲治
この講義では、児玉教授の授業のあとをうけ、動物倫理学を手がかりに、ロボット・AI、異星生物・異星人等のホモ・サピエンス以外の存在に既存の倫理学がどの程度拡張できるのか、できないのかを考える。ホモ・サピエンス以外の存在は、道徳的責任主体としての要件や道徳的配慮対象としての要件を満たしうるだろうか、満たしうるとしたらそれはどういう条件が整ったときだろうか。こうした問いかけは、必然的に、そもそも倫理とは何か、われわれはそもそもなぜ倫理を重視するのか、などのわれわれ自身への振り返りをうながすことになる。
【参考文献】
伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』名古屋大学出版会
伊勢田哲治『倫理思考トレーニング』ちくま新書
久木田水生ほか『AI・ロボットからの倫理学入門』名古屋大学出版会

第13回-第14回：南谷奉良
本講義では、文学テクストの語りの技法、場面構成、視覚・聴覚的イメージの関係を批判的に検討しながら、生成AIを用いて文学テクストを映像へと翻案する実践を紹介します。「人以外の存在者」としては恐竜・古生物を対象に選び、C.J . Cutcliff Hyne（1866-1944）の“ The Lizard ”（1898）のなかで「言葉で描きえない」とされている怪物を映像化する試みを行います。作品の読解からシーンの分割、映像の編集・検証までを通して、生成AIを用いたアダプテーションを学術的な設計にもとづく「作品」として提示しうる方法とその解釈学的・倫理的・創造的課題について考察します。
【参考文献】
河島茂生『生成AI社会―無秩序な創造性から倫理的創造性へ』ウェッジ, 2024
南谷奉良編著・中村靖子監修『生成×ロボティクス』春風社, 2025
南谷奉良「洞窟のなかの幻想の怪物―初期恐竜・古生物文学の形式と諸特徴」『幻想と怪奇の英文学IV――変幻自在編』 東雅夫・下楠昌哉 (担当:分担執筆, pp. 31-53)
ナオミ・S・バロン『書くことのメディア史―AIは人間の言語能力に何をもたらすのか』古屋美登里, 山口真果訳, 亜紀書房 , 2025.
Hyne, C. J. Cutcliff.“ The Lizard, ”Atoms of Empire. MacMillan Company, 1904.

第15回：フィードバック

◆少人数演習【A班】（火曜3限、共西04）担当：五十嵐涼介
第1回　オリエンテーション：自己紹介、担当決め

統合型複合科目（人社群p2）：人と人以外の存在者の関係を考えてみよう！ HL01(4)へ続く↓↓↓

第2回　出口康夫『AI親友論』
第3回　出口康夫『AI親友論』
第4回　出口康夫『AI親友論』
第5回　出口康夫『AI親友論』
第6回　児玉聡・林和雄訳『なぜヴィーガンか？ 倫理的に食べる』
第7回　『なぜヴィーガンか』：動物の解放
第8回　『なぜヴィーガンか』：これが鶏の倫理的な扱い方だろうか？
第9回　『なぜヴィーガンか』：もしも魚が叫べたら
第10回　『なぜヴィーガンか』：ヴィーガンになるべき理由
第11回　南谷奉良訳『書くことのメディア史―AIは人間の言語能力に何をもたらすのか』
第12回　『書くことのメディア史』
第13回　『書くことのメディア史』
第14回　『書くことのメディア史』
第15回　フィードバック
文献を読む順序はオリエンテーションや実際の進行にあわせて修正する可能性あり。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義の評価 50%、演習の評価 50%として合計し、全体の評価とする。

講義：授業への参加状況50%、期末レポート50%
A班の演習の成績評価：平常点（担当箇所の発表50%、議論への積極的な参加50%）による。

詳細は初回授業時に説明する。

[教科書]

出口康夫 『AI親友論』（徳間書房、2024年）
児玉聡・林和雄訳 『なぜヴィーガンか？ 倫理的に食べる』（晶文社）
ナオミ・バロン 『書くことのメディア史―AIは人間の言語能力に何をもたらすのか』（亜紀書房、2025年）

[参考書等]

（参考書）
※講義にかかる参考書は「授業計画と内容」本文中に記載している

[授業外学修（予習・復習）等]

A班の演習について：
毎回、指定された文献の該当箇所を事前に読み込み、自らの考えや疑問点をまとめたうえで授業に臨むこと。発表担当者は担当箇所の概要をまとめ、論点を整理して発表できるよう準備すること。
発表担当でない回も、質問を考えてきたうえで、議論に積極的に参加することが求められる。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーの詳細はKULASISから確認してください。

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small

統合型複合科目（人社群p2）：人と人以外の存在者の関係を考えてみよう！ HL01(5)へ続く↓↓↓

Group Seminars」が「ISS」と略記されます。

[主要授業科目（学部・学科名）]